

# 令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	212	学校名	仙台市立南小泉中学校	校長名	五十嵐 秀樹
------	-----	-----	------------	-----	--------

## 1 取組のタイトル

「生徒会活動を中心としたエコ活動」及び「新しい生活様式における清掃活動」



## 2 取組の紹介

### (1) 地域と共に歩む学校づくり 新しいスタイルの「宮城の萩大通り美化推進キャンペーン」

宮城の萩大通りは、「ごみの散乱のない快適なまちづくり推進地区」に指定されています。

例年、南小泉中学校では、「宮城の萩大通り美化推進キャンペーン」に参加しており、朝早くから地域の方々と、宮城の萩大通りの清掃活動を行ってきました。この清掃活動を続けてきた結果、宮城の萩大通りは、ほとんどごみの落ちていない、きれいな通りになっています。

しかし、キャンペーンは休日に実施されることから、学校の業務が更に増加することになり、日常の教育活動に「持続不可能」な課題が生じてきました。改善策として、今年度は地域が運営の主体となり、校内に「キャンペーンへの参加を呼び掛けるポスターの掲示」を行う等の「持続可能な取組」に変更しました。地域での継続した清掃活動を通して地域の方々との交流も深めることができました。

### (2) SDG s 委員会を中心とした「校内環境の美化」及び「新しい生活様式での清掃活動」

南小泉中学校では、SDG s 委員会（旧環境委員会）が中心となって、校内環境の美化に取り組んでいます。例年は、登校時に通学路周辺の清掃活動を行う「クリーンキャンペーン」を行ってきました。各学級の環境委員が学期の始めにポスターを掲示し、活動前日に呼び掛けを行うなど、学校全体で取り組むことができるように進めてきました。「クリーンキャンペーン」の当日は、委員が昇降口でゴミの収集と分別をしたり、通学路に出てゴミ拾いの呼び掛けを行ったり、「クリーンキャンペーン」は全校生徒に浸透した恒例の取組となっていました。

しかし、学校で行う教育活動の増加や多様化に伴い、「クリーンキャンペーン」の負担が大きくなり、「持続不可能な」課題になりました。改善策として、日常の清掃活動を効率的に行い、校内環境の美化の継続に努めることにシフトチェンジしました。新型コロナウイルス感染拡大防止の際に行った、次のような新しい生活様式での清掃活動を継続しています。

#### ① 清掃時間の短縮及び清掃箇所の省略

時間と場所を精選することにより、ごみが出るから清掃を行うのではなく「普段からごみを出さないような生活を心掛ける」というように、環境に対する意識が変容しています。

#### ② 清掃道具の変更

今までは、床は雑巾で水拭きをしていました。感染症の拡大防止、及び衛生的な校内環境を維持するために、現在はスポンジモップやフロアワイパーを活用しています。掃き清掃に加え同時に水拭き清掃と同じ効果が期待できる清掃道具に変更することで、衛生的かつ清掃時間の大幅な短縮につながっています。

## 3 取組の成果

生徒の環境問題をはじめとするSDG s に対する意識は年々高くなっています。また、SDG s に関する内容を授業などでも取り上げています。生徒たちの間で、SDG s とは、環境問題だけではなく、対人関係や社会のあり方を含んだ総合的な課題であることとして考えを深め、「もっと知りたい」、「SDG s を実践していきたい」という声が増えています。今後も、多様な価値観の尊重や人権意識の更なる向上など、社会の実情に適合したアップデートを行い、校内だけではなく地域の方々とともに持続可能な社会の実現のための取組を続けていきたいと思っております。